



道
みちもり
道守

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.12 冬号



巻頭随想

家族へ 語り伝える道 新井英一

特集

道守九州会議交流会 2006「みちづくし in 長崎」

長崎市に九州各地の道守400人が集う
報告会、交流会、まち歩き "道"の役割を再確認

日本風景街道

戦略会議委員が九州ルートを現地調査

街道を行く

海の街道を行くー奄美大島
ヤコウガイ(夜光貝)と島の道

道守九州会議 設立趣旨

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起し、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在―子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろうか。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音…心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組み人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりだした。道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに―。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、一歩踏み出そう。



巻頭
随想

新井英一

(ブルースシンガー)



家族へ語り伝える道

俺にとって一番の道は「清河への道」だが、原点の道は生まれ育った吉塚にある。家から小、中学校までの道。正直、いい思い出はない。おふくろが盗品売買に巻き込まれ、刑務所に入れられた1年間は、とくに遠くてきつ道だった。

吉塚では知られた不良だった。「おばさん、もらうばい」。市場で売り物をつかっばらって追いかけられたことも、一度や二度ではない。もちろん、最後はおふくろや先生、お巡りさんにこっぴどく叱られた。吉塚にあった映画館で見た小林旭さんや石原裕次郎さんの歌を、ひとり口ずさむことで、心が慰められた。

15歳で家出。歌手になる夢があった。「行ったらどうにかなる、俺はやるんだ」。初めての街には知らなかった世界があり、鼻っ柱をへし折られた気がした。危ない目にもあったが、前へ進む恐怖はなかった。

もつと外の国を見たくなり、21歳で米国へ船で渡航。ロス／サンフランシスコ／ニューヨークへ。異国の道を歩いた。レストランの皿洗い、バーテンダー、建設作業員…。どうにかあった。どろどろとした人間ばかりのエイズ・ストリートも、自分の庭だと感じられるようになった。よくアパートの屋上で母を想い、歌を口ずさんだ。このまま、どっぶり染まるのか。そんな妥協はできず、再び歌手をめざした。

歌うために、東京の街を回った。29歳でデビュー。しかし「何かが違う」。不安定な生活の中で、親父のことを考えた。36歳で初めて父の国である韓国・清河へ行った。吉塚の道。東京の道。ニューヨークの道。そして韓国の道。清河から帰る汽車の中で、親父のこ



■プロフィール
1950年福岡市博多区吉塚生まれ。ブルースシンガー。日本で生まれ育ち、朝鮮半島の血を引く自らをコリアン・ジャパニーズと呼ぶ。1979年にデビュー。自らのルーツと半生を歌った「清河への道」48番を95年に発表。日本レコード大賞「アルバム大賞」を受賞するなど大きな話題を呼ぶ。

と、おふくろのこと、これまでの人生が走馬燈のように駆けめぐった。歌で生きる、この清河への旅はいつか歌にする、と心に決めた。

40歳でやっと親父と自分のルーツを歌った「清河への道」ができた。45歳でCDを出して、52歳で初めて韓国・清河で歌った。「清河への道」は希望の道だった。

おふくろが24年前に亡くなって、福岡はただの生まれ育った場所になった。親父の故郷・清河も、俺の故郷ではないと分かった。俺の故郷は、女房と子どもが待つ場所だ。家族がいたから、救われた。家族が国だ。

「俺と親父の道を、子や孫へ語り伝えたい」という想いは、変わることがない。ありがたいことに自分は歌手として、確認しながら歌い続けることができる。聴いてくれた人が故郷の道を想い、愛することにつながればうれしい。

CONTENTS

- 01 巻頭随想 「家族へ語り伝える道」 新井英一
- 02 特集 道守九州会議交流会 2006 「みちづくし in 長崎」 長崎市に九州各地の道守400人が集う 報告会、交流会、まち歩き "道"の役割を再確認
- 06 日本風景街道 戦略会議委員が九州ルートを現地調査
- 07 道守の輪
- 08 わたしの好きな道 道は人生と同じ 前に進めば、必ずどこかへ通じている 吉野千代子
- 09 私たちの道守活動
- 12 土木遺産 旧津奈木隧道と旧佐敷隧道 (熊本県南・三太郎峠)
- 13 街道を行く 海の街道を行く - 奄美大島 ヤコウガイ(夜光貝)と島の道
- 14 海外道事情【米国】 水辺の都市 道それぞれ サンアントニオ
- 15 ご存知ですか? 始まっています! 「通り名で道案内」 "通り"の名前を利用した道案内システム
- 16 トピックス/人物伝
- 17 道守九州会議会員募集中/お知らせ

表紙画: 久富 正美 1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。



長崎市に九州各地の道守400人が集う 報告会、交流会、まち歩き “道”の役割を再確認



「みちづくし in 長崎」 道守九州会議交流会 2006 が、10月27・28日の2日間、長崎市内で開かれた。九州各地で“道”を舞台に清掃や植樹、歴史・文化の再発見などに取り組む、個人・団体の道守会員ら約400人が出席。活動報告会、交流会、まち歩き体験などを通して道について語り合い、交流を深めた。

主催：道守九州会議・道守長崎会議・国土交通省九州地方整備局・九州幹線道路協議会 共催：長崎さるく博'06推進委員会



1日目
子どもから大人へ、
道守から道守へ…
道への想い語る

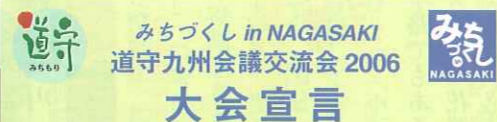
特別講演・茶谷氏



初日の27日は、長崎ブリックホールでの全体会議。開会式で榑木武・道守九州会議代表世話人は「地域間の交流を強め、さらに輪を広げたい」とあいさつした。

「街を歩くだけでも、じゅうぶん観光になることがわかった」。基調講演を務めた茶谷幸治・長崎さるく博'06コーディネーターは、期間中（2006年4月1日～10月19日）に延べ1007万9千人（推計）を集めた「さるく博」の体験から、まち歩きの大切さを強調。「道には歴史や文化、そこに住む人の思いがしみこんでいる。いろいろな土地をさるいて（歩いて）“足ごたえ”を感じてほしい」と、まち歩きやシーニックバイウェイの持つ可能性

に触れた。報告会1部は、九州各県の小中学生が「子ども道守」の活動をスライド形式でプレゼンテーション。木ノ下結理・道守大分会議事務局長の進行で、生ゴミリサイクル、歴史街道の旅、道守クリーンタイム、ボランティア清掃など子どもたちの多彩な活動が紹介された。また「捨てたゴミの行き先を考えて」「大人もすすんでボランティアを」「マナーの手本となるべき大人への痛烈な意見もあがった。最後に登壇した岡本博・国交省道路局企画課長は「大人たちが変わらなければならぬことを痛感した」と返答した。



道ばさるいて、人に出会って、
道ばさるいて、うまかもんば探して、
道ばさるいて、町ば知る。
私たち道守は”美しい国日本”をつくり
ます。

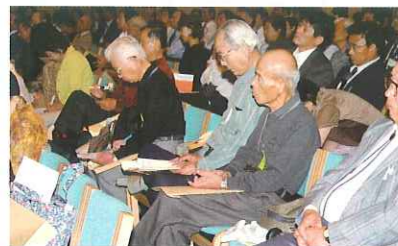


大会宣言を発表する
阿野史子・道守長崎会議代表世話人

三原ユキ江・道守佐賀会議世話人は「道守はすばらしい活動。ここから“官民協働”を創出したい。楽しい会にしなければ続かない。」と結んだ。（次ページに報告要旨を掲載）

会の最後は「みちづくし in 長崎」の開催に尽力した道守長崎会議の阿野史子代表世話人が大会宣言を発表し、締めくくった。

熱心に報告を聞く参加者



2部では、さまざまな道守活動を行う九州各県の代表者が写真やパネルで報告。活動の輪の広がりが今後の展望、活動での悩みや行政への投げかけなどが述べられた。持ち時間を過ぎたパネリストには、昨年と同じくイエローカード。雰囲気の中、座長の

手でも互いの労をねぎらった。最後に、道守長崎会議から来年の開催である道守ふくおか会議にみちづくしのペナントをリリースし、道守活動の発展と

来年の再会を誓い合った。



みちづくし開催で力を合わせた長崎の道守たち

2日目
「さるく博」
まち歩き体験
道で、人で、足で
長崎の魅力堪能

二日目は、「長崎さるく博'06」に参加。道守会員らは7つのコースに分か



さるくガイドが長崎の街を案内

れ、しばしのまち歩きを堪能した。さるく博の最終日前日ということもあり、各コースを担当するガイドさんの語りも滑らかだった。「長崎港水辺散策」コースは、潮風に吹かれながらの散策。港を中心に発展した長崎の歴史スポット、長崎県立美術館や長崎水辺の森公園などの新名所を、史跡のエピソードや物語といっしよに満喫した。日本26聖人殉教地などの宗教施設が点在するエリアを回る「長崎はローマだった」コースは、映画「解夏」のロケ地や夏目漱石が訪れた料亭などを見学しながら、ステンドグラスで有名な中町教会まで歩いた。聖福寺では地元自治会からお茶とお菓子がふるまわれ、坂や階段の上り下りで疲れた体を癒した。



長崎から福岡へ道守ペナントをリリース

長崎から
生ゴミリサイクル花壇で、
元気な花、元気な人間づくり

私たちの道守活動は生徒会を中心にスタート。最初は大村湾護岸、国道などのボランティア清掃を行いました。現在は、佐世保市役所前に花壇を設置し、生ゴミリサイクル活動にも取り組んでいます。目標は元気な花と共に、元気な体をつくること。無菌・殺菌の生活では、どんどん自然から離れ、環境破壊にも鈍感になり、人間が壊れていきます。土や自然に触れば、誰もが「元気人間」になります。土の微生物が免疫力を高め、元気な作物、元気な人間をつくるのです。大切なのは自然と自分との一体感。現在、長崎県内の学校では、土づくり体験などに50校以上が取り組んでいます。道に命の種をまき続け、命がふれる街づくりに貢献していきたいです。



報告者 川崎美奈、舟倉詩織(聖和女子学院中学校2年)

鹿児島から
道を学び、めばえた気持ち
通学路沿いの花壇を守る

5、6年生を中心に、通学路でもある国道10号線加治木バイパス沿いの花壇を世話しています。最初は整地、花植



報告者 内村周、隈元拓也、下小牧涼、船迫翼(加治木町立加治木小学校6年)

道の歴史、機能や役割などを熱心に教えてくれ、「土の舗装体感プロジェクト」で道を調べ、壁新聞で発表していくうちに道が面白くなり、身近な道に対する気持ちが膨らんできました。自分たちのアイデアで、花壇に校章をデザインした坂道づくりも体験。苗や道具、抜いた後の草を運ぶのがとても楽になりました。「結構、気持ちいい」「やれはできるんだ」とボランティアの良さを実感しています。

熊本から
先人の道に想いをさせて
参勤交代・九州横断の旅

参勤交代の歴史を歩いて、九州を横断する旅を続けて29年。これまで総勢約3000人の子どもたちが参加してきました。2006年は8



報告者 上村祐理子(熊本マリスト学園中学校1年)、青藤万里子(熊本市立出水中学校1年)

道守長崎会議
「美しい心、もてなしの心」
道守活動で実践

道守長崎会議48団体のひとつ「小浜温泉57」は、7つの町が合併して雲仙市が誕生した2005年から、国道57号沿線で道守活動を行っている。夜なべ談義などを通じて道守の役割を考え、議論。「道おこしは街おこし」の考えのもと、「市民・観光客の満足度向上」「情報」「環境福祉」のトライアングルを柱に、しっかりとした理念、使命、戦略、戦術を作った。「安全と交流・集客の街づくり」を目指し、10年、20年計画で街づくりをまい進



報告者 宮田隆(小浜温泉57)

道守しまごし会議
心をひとつにして
美しい日本の道を守る

道守がしまごし会議は「道を美しく、道を楽しむ・道から学ぶ・道を活用」の4つのテーマで67団体が活動中。道人が集い楽しむ場所として、様々なイベントも開催している。日本風景街道「錦江湾あつたまる」と「など、地域や県境を越えた道のつながりを意識し、活動していき



報告者 東川隆太郎(しまごし探検の会)、遠藤正子(鹿屋たばこ販売協同組合)

道守みやざき会議
人々との関わり
つながりの大切さを実感

参加団体が47に増えた道守みやざき会議は、自分たちができることを自発的に行っている。2006年は「道守の日(10月22日)」を設定。「誰でも体験できる、誰でも参加できる」をキャッチフレーズに、花植えや清掃など活動を一齐に実施した。「日南海岸きらめきライン」「蒲江北浦大漁海道」の日本風景街道2ルートにも力を入れている。また宮崎大学と連携し、宮崎駅前商店街の植栽、美をテーマとしたイベントなどを開催。商店主、地域住民、専門学校生、小中高生など多くの人の大切なつながりができた。



報告者 石田達也(NPO法人宮崎文化本舗、高橋達太郎(宮崎大学教育学部3年))

道守分岐大会
調整役から景観づくりまで
道へのこだわり活かす

大分にはさまざまな道守活動がある。由布院の「湯の坪街道」は、生活道路と観光道路が一本の道に重なる。2004年にはパークアンドライドの交通社会実験を行った。もっと勉強会やルールづくりなどが必要。道守が行

月15、21日(6泊7日)の豊後街道徒歩の旅。4年前に果たせなかった12.5km(大分県鶴崎町熊本県熊本城)完歩という目標を達成でき、やればできる自分を見つめました。自然の表情を肌で感じ、楽しさや辛さ、そして皆で作った特別な喜びに涙が出ました。旅で学んだ雄大な自然の中に隠れた先人の苦勞の結晶、道を拓く大変さ、道が生み出す歴史を伝えていきたいです。私たちは歴史の道をたどるこの旅が大好きです。熊本の文化を育んできたこの道をこれからも歩き続けます。

宮崎から
道守で地球環境保護を
大人はゴミの行き先を考えて

私たちの道守活動は、全校生徒で月1回の道守クリンタイム(休み時間に道路清掃)、ゴミを拾いながらの下校(3学期)、海岸掃除、道路の花づくりを行っています。4年前に比べてゴミの量は4分の1以下になりました。道守の活躍で社会の意識が高まっているのではないのでしょうか。でも捨てる人(大人?)が必ずいるから、ゼロにはなりません。大人へ伝えたいお願いがあります。ウミガメ保護活動もして



報告者 高橋拓正、西元雄(日南市立潮小学校6年)、雄介、宝蔵運也、坂元琴音(日南市立潮小学校6年)

道守もとの会議
道の堅いイメージも
ユーモアで明るく楽しく

「明るく楽しく」をモットーに、約130団体・約2000人が道守くまもと会議で活動中。ユニークな活動にはマスコミ取材も。道路ふれあい月間に道の駅などで販売した「道の日カレンダー」は、道に食を結びつけることで、道の堅いイメージを粉砕し、幅広い世代に好評を得た。県道337号(豊後街道)に残る由緒あるハゼ並木の保護活動では、マイツリー運動や環境保全、植栽の機動隊を結成するなど、後世に継承できる活動を続け



報告者 一田功子(熊本の道を語る女性会)、黒木嘉次郎(街道並木・樹を守り育てるボランティア会)

道守佐賀会議
おもてなしと恩返し
気持ちでまい進

熊本、鹿児島との道守交流、意見交

いますが、ビニールなどのゴミは彼らを死に追いやります。ゴミを捨てないことは当然ですが、捨てるゴミの行き先も考えてください。生態系に悪影響も及ぼすことにもなります。道守活動で地球環境を守りましょう。

大分から
小さな道守活動の輪
中学生の間に広がる

北中・天神小杉ボランティア活動は、学校の週5日制と日田市清掃ボランティア募集をきっかけに、中学生と地域の人たちで始めた小さな道守活動です。毎月第3土曜日朝8時から9時までの1時間に、高速道路周辺のことも公園、ガード下、駐車場などでゴミの収集、分別、草刈りを行います。進んで参加したり、友達を誘いなどで、年々生徒数が増加。地域の方々と一緒に、自分たちの住む場所のゴミ拾いをするのは気持ちがいいです。自分も地域の一員という気持ちから、積極的にいろいろな行事へ参加したり、物事が長続きするようになり、ポイ捨てや分別マナーなどゴミに対する意識も変わりました。卒業後も道を綺麗にしていきたいです。



報告者 岩田俊、佐竹真之介(日田市立北中3年)、岡本宗重(北中ボランティア)

道守福岡会議
行政と道守の連携
清掃活動、マップ作り

福岡県南地域の柳川では「できるひとが、できることから」を合言葉に、25団体約350人が活動中。行政の積極的な働きかけもあり、勉強会や清掃活動などを定期的に開催。観光地・柳川のイメージアップにもつながっている。活動の輪は大川など周辺地域にも広がった。北九州では、地域づくりと道路管理の視点から、道守団体などが行政といっしょに「歩きやすさマップ」を制作。散策や観光、駐輪マナー、歩道整備などに基礎資料として活用し、まちづくりに活かしていく。



報告者 山田三代子(道守柳川ネットワーク)、木村健一(黒崎地区美化推進協議会)

戦略会議委員が九州ルートを現地調査

日本風景街道戦略会議が、4月に実施した「阿蘇くじゅう・やまなみ」ルートの視察調査に引き続き、同会議ワーキンググループの委員による現地調査を5つのルートで新たに実施。各ルートの地域資源や活動内容の実状を把握し、現地で活動する人たちの意見交換が行われました。同会議では、これらの現地調査を踏まえ、今年度末を目標に制度設計を行っていく方針です。

視察メモ

(仮称)玄界灘風景街道
9月8日～12日



博多部の町中参道の鳥居

福岡では、博多部の路地通りに残る道文化や歴史の景観、天神地区のオープンカフェ等の活動状況、百道地区の永年にわたる松林再生への取り組み等の説明が行われた。唐津「虹の松原」では、美しさに加えて防潮・防風林としての役割に大きな期待が集まった。また「公共事業の学びの材料」として活用していく必要性も強調



虹の松原内の道

調された。名護屋城跡では、地域資源を物語る人材の有無が、訪れた人の評価を大きく左右することが認識された。

ながさきサンセット・オーシャンロード
9月9日～11日



新西海橋

平戸・佐世保では、九十九島などの著名な資源以外に、新しく造船などの産業資源を紹介していく意欲が見られた。一方、沿道の景観を壊す建築物に対して、一部落胆の声もあがった。西彼杵半島では、日本風景街道に多くの期待が集まった。「長



“とるば”からの景観

域づくり、南薩の沿道に広がる農園風景を視察。景観維持などについて意見交換を行った。また、過疎地域での空家の活用、体験型民泊修学旅行など、知恵と工夫によるさまざまな取り組みが委員に紹介された。

蒲江・北浦大漁海道
12月17日～18日

蒲江・北浦ではリアス式海岸の美しい景観、海浜とのどかな浦々、水揚げする漁師と陸で奮闘する女性の活気あふれる漁港風情、塩づくりや豊富な水産物での商品開発を



蒲江の海岸線

視察。意見交換会では、厳しい道路環境で生きる地域の姿と高速道路に寄せられる期待を実感した。視察の際に立ち寄った臼杵では、城下の街並みを活かした街づくり、竹宵の市民活動などを見学。日本風景街道に



臼杵城下の街並み

新たな調査ルートと参加委員 (敬称略)

調査ルート名	調査日程	日本風景街道戦略会議WG 参加委員				
		家田仁	石田東生	大石久和	新町光示	玉川孝道
(仮称)玄界灘風景街道	9/8～11	●	●	●	●	●
ながさき サンセット・オーシャンロード	9/9～11	●	●	●	●	●
日南海岸きらめきライン	9/21～22	●	●	●	●	●
錦江湾あつたまる〜と	9/22～23	●	●	●	●	●
蒲江・北浦大漁海道	12/17～18	●	●	●	●	●

道守の輪

くまもと道のフォーラム
みんなで語ろう！
日本風景街道

11月21日、熊本市で「2006くまもと道のフォーラム」が開かれた。8回目となる今回のテーマは「道がつなぐ地域と観光くまもと日本風景街道をふまえて」。およそ2000人の参加



くまもと道のフォーラムの様子

者が九州地方整備局・吉崎収道路部長「新しい道のかたちくまもと日本風景街道」旅の達人・栄田眞一氏「現場からの報告・道と観光」の2講演に耳を傾けた。また、本音放談「どうする熊本シーニック！」では(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務

崎さるく博06」では、道を歩き、案内することが地域の人々の誇りや活気を生み、来訪者の満足を増加させることが知られた。



沿道に残る歴史資源

日南海岸きらめきライン
9月21日～22日



道路空間が創る景観

先駆的に日本風景街道へ取り組んできた宮崎では、沿道修景美化の経緯と現状、道守活動による自主的な取り組みの詳細な説明と視察が行われた。一方、バイク整備に伴って裏通りとなる観光

錦江湾あつたまる〜と
9月22日～23日

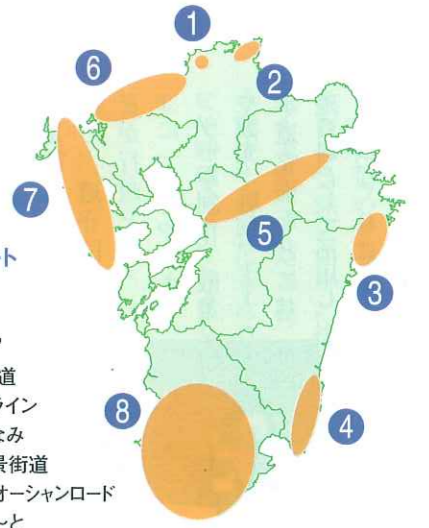


桜島での意見交換会

桜島の「まちの駅」を拠点とした地域づくり活動、指宿の道を使った市民マラソン等での交流人口の拡大と高次医療と温泉保養を活かした地



日南での意見交換会



- 九州内モデルルート
- 1 唐津街道原町
 - 2 (仮称)北九州「ゆっくりかいどう」
 - 3 蒲江・北浦大漁海道
 - 4 日南海岸きらめきライン
 - 5 阿蘇くじゅう・やまなみ
 - 6 (仮称)玄界灘風景街道
 - 7 ながさき サンセット・オーシャンロード
 - 8 錦江湾あつたまる〜と

道守だより 各地で発行
道守活動をもっと知ってもらいたいという思いから、地域独自の道守広報誌が九州各地で発行されています。各広報誌は、道守九州会議のホームページからも見ることが出来ます。ぜひご覧ください。
<http://www.michimori.com/>



左から/道守大分会議通信、ボランティア佐世保通信、「小浜温泉57」だより、おおすみ分科会誌

わたしの好きな道

道は人生と同じ 前に進めば、必ずどこかへ通じている
— 国道269号線 —



269号線から見る夕暮れ

鹿児島県の大隅半島に位置する鹿屋市から、国道269号線を通って佐多岬に向かう。穏やかな海と対岸の薩摩半島にある開聞岳（別名 薩摩富士）、桜島を眺めながらのドライブは心が和み、いろんなことを忘れさせてくれる。また、この道から見える、錦江湾に沈む真紅の夕陽は格別である。

私は、海も山も近くにある町に住んでいる。結婚して34年。二人の娘は東京で社会人として自立。長男は地元で結婚し、1歳半の子どもの父親としてがんばっている。

3人の子育てをしていたころ、この世で自分以外に不幸な人間はいないだろうと、このまま子どもたちと一緒に死んだら楽になるだろうと、自己中心的で身勝手なことを考えていたことがあった。そんなことも、ついこの前のような気がする。

「人生、山あり谷あり」と言うが、まさにその通りだと痛感している。決してなだらかで平坦な道だけではないと思えることも体験した。今、思い起こすと辛い思いもしたけれど、楽しい思い出もたくさん残っていることに気づく。例えば、夕陽がきれいな時期は、晩ごはんも作らず沈むまで眺めていたこと、おにぎりとかップラーメンを持ってえびの高原までドライブしたりしたこと…。この道を通して、子どもと一緒に自然にふれ、感性を磨き、思い出作りがたくさんできたことに感謝したい。今では息子家族が、えびの高原まで楽しいドライブコースにしている。

道は人生と同じ。前に進んでいたら、必ずどこかに通じている。辛いときも楽しいときもやさしく、正しい方向へ導いてくれる。泣きながら走った国道269号線は大好きな道だ。私のすべてをわかってくれているから…。

プロフィール
吉野千代子

鹿児島県鹿屋市古里町在住。道守かごしま会議おおすみ分科会会長。鹿児島熱闘会議会長。男女共同参画社会の推進活動で、紙芝居の出演講座などに取り組む。



269号線沿いのレストラ
ンで好きな場所「アクテラ」



私たちの
道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのため、九州各地の道守会員が取り組むスタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 佐賀編
道守佐賀会議

道守体験事業で輪を広げ
新たな道文化も育つ

道守佐賀会議（渋谷里美代表）は、2004年7月5日にスタート。『できるときに、できる人が参加する』をモットーに、活動の輪を広げています。また、長崎街道の菓子文化を検証するシュガーロードなど、新たな道文化も育っています。

心をいやす花畑
牧瀬杏会の
花植え体験

「できるときに、できることをできる人がやる」。1988

年から道路環境美化に取り組む牧瀬杏会（唐津市厳木町牧瀬）は、月2回の活動が基本ですが、

随時会員が自主的に清掃、ゴミ拾い、植樹などを行っています。また春と秋の国道203号線沿いの「ふれあい花畑」への花植えで、地域の人々や通行者の心をいや

しています。今回は道守体験事業として、道守会員23人が秋の花植え体験に参加。終了後は手作りの甘酒と栗ご飯で、今日までの花植え談義に花が咲きました。



多久市そうじの会
100回記念で
一斉掃除



多久市そうじの会では「大きな夢への小さな一歩、美しい町は多久市から」を合い言葉に、毎月第3日曜日を「そうじの日」に制定。2006年1月に多久市役所周辺の清掃・花植え活動が通算100回を越え、4月に記念大会と一斉清掃を行いました。「そうじを通して人の心を磨く」と題したイエローハット・鍵山秀三郎氏の講演会も開催。市内の小中高生に募集した標語を表彰し、現在は市内22カ所に看板として設置しています。

佐賀 NPO法人 活気会

地図片手に地域調査
13の通り名命名



2003年設立。会員10人で「長崎街道で絵を描こう」や「シュガーロードフェスタ」などに取り組んできました。

今回、佐賀市中心市街地の「長崎街道」（シュガーロード）沿いが、国土交通省の社会実験「まちめぐりナビゲーション」に採択されました。この実験は、「通りの名前を利用した道案内」により、気軽に街道沿いの歴史・文化やお菓子店などを歩いて周遊し、地域の魅力を発見できるようにするものです。

私たちが事務局となり、地域に不慣れた人に対してわかりやすい道案内を図るため、地図を片手に地域調査を9月から開始。13個の名称を付けました。

実験は平成19年2月～3月までの「佐賀城下ひなまつり」期間に実施する予定です。

（三原ユキ江）



福岡 柳川ブロック婦人会・柳河支部

できることから少しずつ
無理なく道守の“輪”拡大



ターゲットしています。

仕事などのある人は、30分くらい早く草取りを始めています。ほんとうにうれしく「ありがたい。適当なときに帰ってね」と声かけ。毎回メンバーは少し変わりますが、それでいいと思います。柳川ネットワークの合言葉は「できる人が、できることから」とにかく無理なく続けることが大切。

これからも柳川の町づくりで温かい心配りと前向きな道守を目指し、ちよつとずつ仲間を広めていく幸せを感じていきます。(森 信子)



大分 九州建設コンサルタント株式会社

温かい言葉に支えられ
道空間づくり体感

「ありがたい」「ごころうさん」。商店や通行中の人から掛けられる言葉が、ちよつと気恥ずかしく感じたJR大分駅前の国道10号清掃活動も、12月で丸1年が経ちました。

活動は20人体制で、約1kmの両側歩道部分を毎月1回実施。場所柄、車も歩行者も多く、事故のないようにと注意しながらの作業です。投げ捨てられた、たばこの吸い殻や空き缶に悪戦苦闘しながら続けられているのは温かい言葉のおかげ。

これまで、道づくりによって社会に貢献してきたと思っていますが、道をつくるには当然、住民の方々の税金が基になっています。これからは清掃活動を通じて、住民に喜ばれる道空間づくりを体感し「任んで良かった」「来て良かった」と感じてもらえたらと考えています。(松岡洋宣)



長崎 道守諫早ネットワーク

国道交差点改良工事見学で
道路行政機関と連携強化



結成は平成18年3月23日。現在、10団体・2個人が参加。諫早市内で「道の環境美化」や「みちを語るミニ座談会」に取り組んでいます。

11月28日、道守会員と近接自治会役員8人は、ヘルメット・ゴム長靴を着用し気分をピリッとさせて、一般国道34号小船越交差点改良工事現場を見学。

この工事は、交通渋滞緩和と国道34号大村方面や国道57号島原方面への利便性向上を主な事業効果にしていること、供用は今年春に予定していること、そしてトンネル工事完了後、初めて地域住民が視察したことなどを丁寧な説明に長崎河川国道事務所の担当職員から説明していただきました。

工事の様子や概要が理解できて大変有意義な見学でした。今後とも各道路行政機関と連携し、さまざまな道づくりに関心を高め道守活動を進めます。(中野勝利)



熊本 子ども道守隊「おびにしず」

子ども道守隊で学ぶ
みんなで楽しく道のこと

おとし「子ども道守隊」ができた聞いて、クラブ活動気分近所のみんなと入隊しました。大人の道守の人と一緒に、熊本市内の「みち祭り」の出し物見学や「道の日」の一斉清掃など、いろいろな道のイベントに参加しています。



もともと掃除は好きだけど、入隊して道を清掃する機会が増えました。みんな夢中になり「そろそろ終わろうよ」と声をかけられることも。たばこの吸殻など、一つ一つ拾うたびに道がきれいになっていくのは、とても気持ちがいいです。



そのほか、道の俳句に応募したり、道のクイズを考えたりしています。時々、道守くまもと会議から、道のノートや本などが送られてくるのも楽しみのひとつ。これからは「子ども道新聞」づくりにも挑戦してみたいです。(児玉理佐)

宮崎 落書き消し隊(NPO法人きよたけハートム)

落書き消しで地域と協力
トンネル、道路、気持ちすっきり



「地域」をキーワードに宮崎郡清武町で活動しています。今回、一部の若い人達による「ガードレール」や「トンネル壁」の落書きを消す作業を行いました。

落書きは「ここは何をしても誰も気付かない場所」、「通行する人達は無関心」などと考えられ、次の「犯罪」へ発展する危険性があります。

そこで、ハートムのメンバー以外に、加納中学校女子バレーボール部の生徒、清武交番所員、地域住民の方と協力。「水をかけながら、金たわしでこする」という単純な方法でしたが、落書きを消す事ができました。ゴミも拾って壁も道路も私たちの気持ちもすっきり。落書き消し隊にかかわり、とても大切な場所になりました。(山口正昭)



鹿児島 NPO法人 物網人

まちづくりをコンセプトに
出会いと交流の場演出



平成17年8月、鹿児島市伊敷団地の住民11人でまちづくりをコンセプトに安心できる住み良いまちを目指して設立。現在、会員20人。まず、地域の情報を入手して、地域の人と交流できる地域コミュニティセンター「まちの駅」の提供をしました。

同年12月には、子どもを狙った事件を押し止する防犯パトロール隊を結成。県警より青色回転灯による防犯パトロールの許可を受け、巡回パトロールを開始しました。



平成18年11月からは、鹿児島島の「ひと・もの・まごころ」の出会いと交流を図ることを課題とし、さまざまな知識・技能が習得できる「さつま交流館」を天文館に設立。鹿児島島の文化学習の拠点を形成することによって人々が交流し、共生、共学に向けて活動できるように頑張っています。(松元潤平)

近代化遺産として再登場

九州路の難所として知られる熊本県南の三太郎峠に、明治時代にできた旧国道の旧津奈木隧道と旧佐敷隧道が、国登録有形文化財となり、わが国の近代化遺産として再び登場してきた。

江戸時代の薩摩街道から国道へと変わった明治時代、険しい3つの峠、南から津奈木太郎峠と佐敷太郎峠に隧道が掘られ、あと1つの赤松太郎峠は掘り割りとなされた。その三太郎峠の旧国道は明治、大正、昭和と3代にわたって、九州の南北をつなぐ基幹道路の役割を担ってきた。

国道3号開通で60年の役目忘れられる

九州にもモータリゼーションが始まる昭和40年、この三太郎峠の険しく曲がりくねった旧国道は、新たに国道3号として平坦な道路に造り替えられた。

そして、旧国道も旧津奈木隧道、旧佐敷隧道とも町道と格下げされて、忘れ去られてしまった。

浪漫を土木遺産訪ねて

この2つの旧隧道へ案内してくれた熊本県芦北町教育委員会・文化振興係の深川裕二さんは「子どものころ、この真つ暗な旧佐敷隧道は幽霊が出ると、肝試しの場所でした」と苦笑した。

国道3号から旧国道へ登ると、道幅が狭く、曲がりくねり、カーブミラーがないところは怖いくらいだ。この町道は柑橘生産農家の人が時たま使うくらいで、ほとんど利用されていないようだ。離合は難しいと思ったが、1台も車とは出会わなかった。旧佐敷隧道の途中、参勤交代への道筋にもなった「薩摩街道・江戸へ、薩摩へ」の道標が立っている。旧佐敷隧道も旧津奈木隧道も、入り口のアーチの上にある隧道名を彫った額はコケに被



坑口が馬蹄形の津奈木隧道



側壁が垂直の佐敷隧道



旧津奈木隧道と旧佐敷隧道

熊本県南 三太郎峠



2つの隧道を案内する深川さん

明治時代に自動車社会を見通す先見の明

熊本大学大学院自然科学研究科の山尾敏孝教授によると、旧津奈木隧道は明治32年(1899)に工事開始、34年に開通。全長211.6m、幅員5m、中央高4.4m。隧道坑口の形状は馬蹄形。旧佐敷隧道は明治34年(1901)着工、36年5月末に竣工。全長433.5m、幅員5.5m、中央高4.4m。隧道坑口は旧津奈木隧道と違って、側壁が垂直。どちらもおランダ人技師による設計・施工であり、坑道内はアーチ状に煉瓦積み。ともに煉瓦の大きさは東京標準と比べると85%大で、22.5×11.5×5.0cmと小振り。徳島県から旧田浦町(現芦北町)に移り住んだ瓦職人が製造したとの記録が残っている。



小振りな煉瓦積み

「昭和40年までの約60年間、当時予想すらしていなかった自動車社会にも何とか役立ったことを考えると、先見の明に驚かされる」と、山尾教授。隧道の幅員5mは車の離合を可能とした。陸の孤島といわれた三太郎峠の旧隧道が地域経済に果たした土木遺産の功績を評価して、山尾教授は国登録有形文化財へ働きかけたのである。

平成18年8月には、NPO法人熊本自然を愛する会(阿南誠志会長)が、薩摩街道を歩く会に小中学生28人とスタッフ13人の参加を募って、旧佐敷隧道と旧津奈木隧道もコースに入れて歩いた。

先人たちが残した隧道を通った阿南さんは「明治時代にあんなトンネルが掘られたとは知らなかった。来年も子どもたちを連れて行って見せたい」と話し、三太郎峠を土木遺産として見直す動きが出始めた。



出口がほかに明るい

街道を行く

歴史を学び、道を守る

海の街道を行く 奄美大島 ヤコウガイ(夜光貝)と島の道

宝池の中島に浮かぶ極楽浄土の宮殿。京都・宇治市の平等院鳳凰堂は夜光貝の螺鈿で飾られ、平安時代末期、藤原時代の華やかさをいまに伝える。奄美大島には夜光貝の大量出土遺跡がある。名瀬市や笠利町の遺跡は夜光貝の集積地で、ここから運ばれた。



島を代表する景勝地・あやまる岬

南の島から、海の道を渡り、はるか、京に運ばれ、都人に珍重された。夜光貝だけではない。もっと古く、卑弥呼の時代。ゴボウラ貝で作った貝輪は、王たる者の象徴であった。奄美群島は、古代から中世にかけての千年、宝の島々だったの



上空からの奄美大島

「素敵、見了」。女性の声が届いた。飛行機が下降し始め、雲を抜けると、奄美の海がコバルトブルーに広がる。見つけていると、美しい貝を載せた小船が、黒潮に乗って、日本列島を北上する光景が波間に浮かんできた。南の島の、幻想。



コバルトブルーの海が広がる

奄美は今も「宝の島」。アマミノクロウサギをはじめ、貴重な動植物が数多く、まるで、生



ソテツが群生する「宝の島」

きた博物館だ。千万年前から千五百万年前、九州が朝鮮半島と陸続きになり、琉球列島は台湾さらに大陸とつながり、いまの東シナ海は内海になっていた。多くの動植物が「陸路」で、奄美にやってきた。その後、海面が上がって、奄美は、新生代の生き証人・希少動物群を、いとおいしく、いまも抱き続けている。屋久島に続いて、

世界遺産になる日も近い、と思った。(久保平)



葺き草の民家や高倉が いまも残る



始まっています！「通り名で道案内」 “通り”の名前を利用した道案内システム

地域の人々になじみ深い道路の名称“〇〇通り”。その通りの名前と「位置番号方式」を使った新しい道案内システム「通り名で道案内」を、九州内の3地域で試験的に導入しており、今後、3地域で予定しています。わかりやすい通りづくりと町の歴史の継承を目的としたプロジェクトです。

日本と欧米では住居表示の方式が違います

日本のほとんどの地域では「街区方式」を採用。道路、河川などによって区画された地域に付けられる符号と、その地域内の建物に付けられる番号を用いて表示しています。一方、欧米では「道路方式」を採用。道路の名称と、道路に接する建物に付けられる番号を用いて表示しています。日本では山形県の一部で採用されています。

●街区方式の表示例 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号

●道路方式の表示例 山形県東根市板垣通り10

「通り名で道案内」は 「通り名＋位置番号」で表示

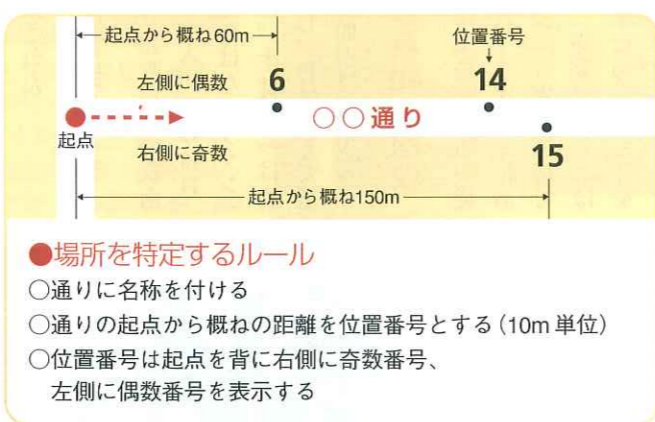
「通り名で道案内」は、通り名と位置番号を組み合わせた「通り名・位置番号方式」による住居表示です。

【試験的導入中の地域】

- ・福岡市天神地区 ・長崎市
- ・鹿児島市天文館地区

【試験的導入予定の地域(平成19年2月～)】

- ・佐賀市 ・島原市島原城周辺地区 ・熊本市



わかりやすい道案内ができます

由緒ある町名や通りの名前を活かした「通り名で道案内」は、観光客など地域に不慣れな人でも、場所の説明や確認がしやすいのが特徴です。「現地に表示する」「通り名マップを作成する」「HP、チラシ、電話での道案内に使う」といったシーンで活用されています。

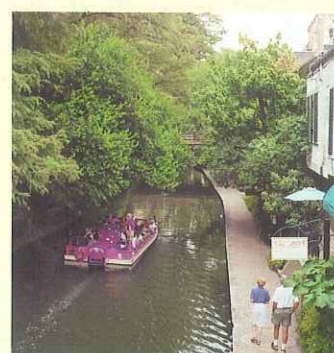


●道路についてのご意見・ご相談を受け付けています

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 FAX 092-476-3514 [24時間 毎日受付] E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp HP http://www.qsr.mlit.go.jp

海外道事情 米国

水辺の都市 道それぞれ サンアントニオ



リバーウォーク案内地図。

川と道を人々が行き交う。

街から一層切り下げた、リバーウォークは人々のための場所。

サンアントニオと言えば、テキサスは砂漠のオアシス、リバーウォークで有名な水辺の都市であるが、モーターゼーションの進展した米国であるだけに、もちろんそこには道がある。飛行機に乗り空港に着くと、空港バスに乗り換えハイウェイをかつ飛ばし、1時間ほどで市内に到着。アラモザで降りた地図を頼りに車がばんばん走る幹線道路の歩道をよちよち歩くのだが、いっそうに水辺は見当たらない。と、突然橋を渡っていることに気づき、眼下にサンアントニオ川とクルーズ船、そして川に沿って楽しげにそぞろ歩きする観光客の姿が見えるのである。

あれ、これってどこかに似ている。そうだ、日本の水辺の風景に似ている。倉敷美観地区を大原美術館から見下ろした感じ、九州であれば柳川の水辺を御花の2階から見下ろした時の感覚に近い。もちろん、目に見えているのは原色でやや大振りな米国の風景であるが、空間のしつらえが、歩く人に合わせてつくられている。

リバーウォーク周辺の水辺は、サンアントニオ川本川からは堰によって切り離された旧河道である。過去の大洪水を教訓に本川にはバイパスが設けられ、洪水調節機能はそちらが受け持つ。人々に親しまれてきた旧河道は、隣接する宅地やホテル群はそのままに一段低いレベルで整備が行われ、治水上の制約をクリアし



熊本大学大学院自然科学研究科助教授 田中尚人氏
博士(工学)。京都大学大学院工学研究科助手、岐阜大学工学部講師を経て、平成18年4月から現職。各務原市景観審議会委員、風景デザイン研究会幹事などを務める。専門は土木計画学。

つつ地上レベルの喧嘩から逃れ、人々が安心して歩いて楽しめる散策道があったのである。

川を中心とした水辺空間であるが、ここにはまちを楽しむ道が欠かせない。リバーウォークを楽しむ客が、川沿いをそぞろ歩く人々や橋にたたく人々に手を振り返す。川の上の人と、道の上の人は、絶妙なバランスでしつらえられた空間で、それぞれが景色の一部となる「見る・見られる」関係を楽しみ、今度はあちらへ行ってみようと思えば、対岸の自分を想像するのである。

飛行機、バス、徒歩と徐々に低速な移動となるにつれ、景色を楽しむ余裕ができる。お庭の遣り水と同様に、道にも立地や大きさに見合う機能やしつらえが求められる。役割分担とも言えはばいのか、それぞれの道にはそれぞれの良さがあっていくこと。ネットワーキ化されたシステムが、序列を持って有機的に機能する階層性(ヒエラルキー)を構築していることである。



道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っています。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。
※賛助会員(会費あり)の募集も行っています。詳しくは下記事務局へお問い合わせください。

あなたも九州の道を考え、守ってみませんか?

道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。



人間が元気だと、花も元気になる
名島校区花の架橋実行委員会(福岡市)

道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所等の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



8月4日は「橋の日」清掃
有限会社 橋本建設(佐賀県唐津市)

広げよう道守の輪

九州各地の多くの方々が道を舞台に活動を繰り広げています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



日南海岸220号を守る
鶴戸山をかつしやる協議会(宮崎県日南市)

TOPICS

下級武士の家再現構想 詰め所機能など多目的に

鹿児島市加治屋町に歴史ロード「維新ふるさとの道」(仮称)の整備基本計画策定を進めている同市は11月20日、薩摩藩の下級武士の家を再現する構想を新たに盛り込んだ素案を、同計画策定委員会に示した。薩摩琵琶の演奏など多目的な活用をするほか、観光ボランティアや語り部の詰め所の機能も持たせる考えだ。

「土木の日」にカエデ植樹 6年で計600本

伊万里建設業協会に加盟する36社の役員らが11月18日、有田町の国見有料道路脇にカエデ100本を植えた。同日の「土木の日」にちなみ、建設業のイメージアップを図るボランティア活動。同協会は1990年から奉仕活動を行い、国見有料道路への植樹は6年目。今回の分を加えて計600本に上る。

竹灯籠 1万本にうっとり

1万本の竹が晩秋の夜を彩るイベント「かしま鍋島竹あかり」が11月11日と12日の両日、佐賀県鹿島市の神社や参道で行われた。市の魅力や歴史を体感してもらおうと市内に多いモウソウウチクを使い、4年前から実施。訪れた人たちは、うっとり見入っていた。

官民共同で清掃活動

九州電力竹田営業所とグループ企業、市役所職員、地元自治会など関係者約

70人が10月7日、竹田市の岡城の石垣清掃と城址公園周辺の観光道路沿いの桜約200本の枝切りや病木の手入れを行った。岡城は県内で唯一、「日本桜百選」に選ばれており、春の観光シーズンには県内外からの花見客でにぎわう。九電は20数年前から岡城の石垣清掃ボランティアを続けている。

電飾点灯で 色鮮やかなコスモス街道に

第21回コスモスフェスティバルが10月7、8両日、久留米市北野町高良のコスモスパーク北野を主会場に開かれた。同パークでは5日夜、夜間イルミネーションの試験点灯があり、陣屋川河川敷の約4キロにわたる「コスモス街道」に咲くピンクや紫色のコスモスが、色鮮やかに映し出された。

美しい古里の風景楽しんで

そんな思いから、立花町白木の筑南中学校の全校生徒146人が11月17日、同町で開かれる「夢たちはなマラソン」のコースを清掃した。生徒たちは約2.5キロ区間を担当し、竹ぼうきで落ち葉や枯れ木を約2時間かけて集めた。

ぼうき片手にごみ40袋回収

長崎市平野町の九電工長崎支店の従業員約80人が10月20日、支店近くにある同市岩川町の山王公園や周辺道路で清掃奉仕活動をした。従業員たちはぼうきを手に約1時間半にわたって汗を流し、ごみ袋約40袋分の落ち葉やペットボトルなどのごみを集めた。

島民とランナー開通祝う

2005年3月の福岡沖地震による土砂崩れで通行止めになっていた福岡市東区志賀島の周回道路完全開通を祝う復興祭が10月29日、島内で開かれた。会場に集まった住民は笑顔で開通を喜び、島の生活と観光産業の復興を誓った。志賀島金印マラソンも開催され、約700人のランナーが約10キロのコースで健脚を競った。

おしチャリで歩く楽しい街

歩道で自転車を押して歩いてもらう「おしチャリロード」が9月16日、福岡都心を南北に貫く「渡辺通り」に登

道守 人物伝

自然歩道ガイドとパトロール兼務



熊本県阿蘇郡高森町
山村将護さん(56歳)

熊本県阿蘇郡高森町が観光客相手に町内の観光地(自然歩道)や歴史、文化などをガイドする「観光案内人」の養成講座講師。ガイド歴13年。2005年9月から始まった講座で16人の受講者を1人で担当した。
自然公園指導員、熊本県自然ふれあい指導員、阿蘇地区パークボランティア
ア、林業改良指導員、阿蘇自然案内人協会副会長。29年間勤めた高森町役場を退職した現在の肩書の一部。
町の自然歩道「東外輪コース」の希少植物や登山道のパトロールも年40日行う。歩道の手入れも行き届いており「刈るもんやパトロールするもんは大変」と語る。故郷の歴史への関心も旺盛で、独学でものにした「阿蘇神話街道」の著者でもある。「ガイドの知識を未来に残したい」との思いからだ。
自然、歴史、人材育成から地域づくりへ。「生徒16人が、さらに案内人を増やしてくれるはずですよ」と願う。

道守九州会議からのお知らせ

福岡県幹線道路協議会 道守分科会設置 道守と合同懇談会実施

12月26日、福岡県幹線道路協議会が道守分科会を設置。同日、道守ふくおか会議との合同懇談会が開かれ、今後の協働・連携や道守活動の推進などについて関連な意見交換が行われました。
官民の意思疎通を深めつつ、公共空間改善やまちづくりの視点で発展的に議論していくことを確認しました。

「九州とるば」 第3回フォトコンテスト開催中!

九州とるばでは、第3回フォトコンテストを開催しています。対象は2007年1月31日まで投稿された全ての作品になります。奮ってご応募ください。詳しい投稿方法は、「九州とるば」ホームページをご覧ください。
http://www.torupa.com
http://kyusyu.torupa.jp/

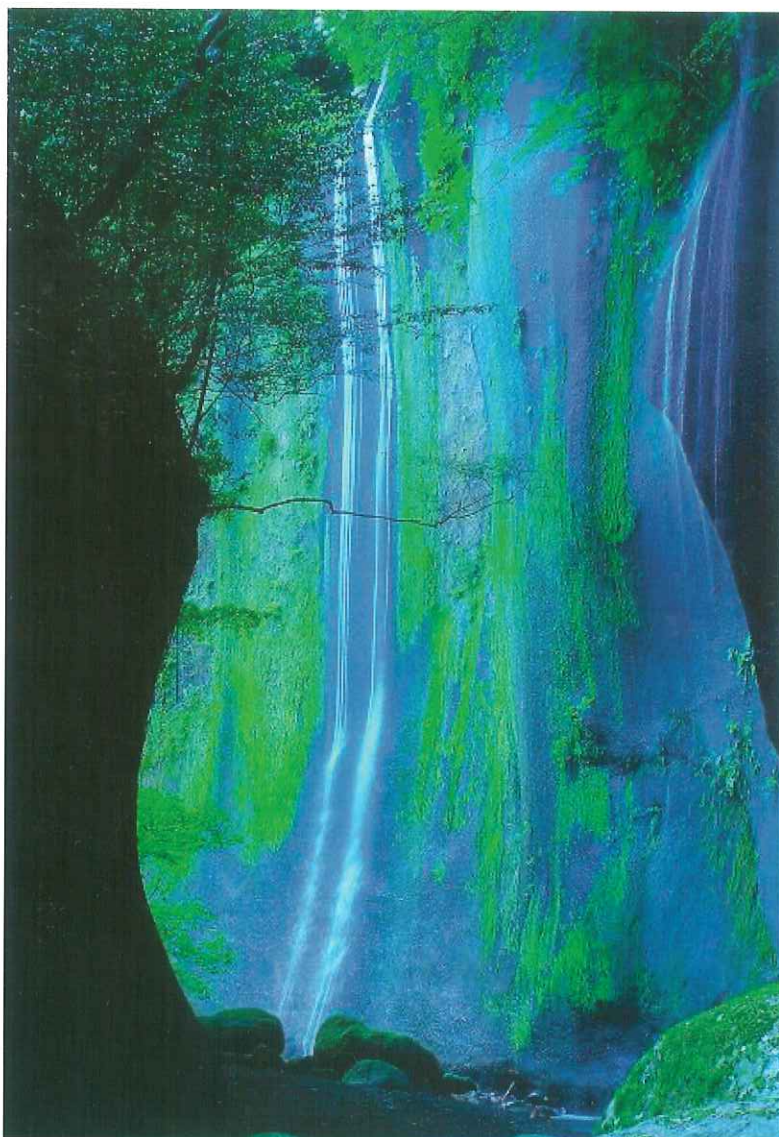


●入会申し込み・お問い合わせ

(社)九州地方計画協会内
「道守九州会議」事務局
〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
ホームページもご覧ください。申し込みも可能です
道守HP <http://www.michimori.com>
e-mail michimori@michimori.com

道守通信 編集後記

明けましておめでとうございます。道守通信も12号。道守仲間の活動を中心に編集してきました。まさに道守相互の「通信」の役割を果たすため、グラビアのように派手な紙面づくりはできるだけ避け、情報中心の個性を大切にしています。九州の風景街道が目立っていますが、これも「道守活動」の広がりがあってのこと。基本は道を守る心、この一点を大切に、通信編集を、と考えています。今年もよろしく願います。(編集長・玉川孝道)



Po 第2回 とるばフォトコンテスト 優秀賞作品
「由布川峡谷」 岡本芳生氏(大分県)

<フオトスポット> 大分県由布市挾間町内成 (駐車場から200m、徒歩3分)

季節折々の水の流れ、色んな顔を見せてくれる峡谷です。



広報誌「道守通信」冬号
平成19年1月10日発行

■発行 「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス michimori@michimori.com

定価 300円(消費税を含む)